

令和元年度 第1回瑞穂市総合教育会議 会議録

令和元年9月27日（金）午後1時30分開議

○日 程

開会

1 あいさつ

- 2 議 題
- （1）市の英語教育について
 - （2）学校給食費の補助について
 - （3）瑞穂市教育大綱について

3 その他

閉会

○出席者

市 長	森 和 之	教 育 長	加 納 博 明
教育長職務代理者	加 藤 悟	教 育 委 員	森 下 伊 三男
教 育 委 員	加 木 屋 加 緒里	教 育 委 員	大 平 高 司

○欠席者

なし

○説明のため出席した者の職・氏名

教育次長	児 玉 太	教育総務課長	松 島 孝 明
学校教育課長	小 川 瑞 樹	幼児支援課長	林 美 穂
生涯学習課長	児 玉 睦		

○職務のため出席した者の職・氏名

総務部長	久 野 秋 広	総務課長	石 田 博 文
総務課総括課長補佐	野 田 秀 樹		

○傍聴者

1 人

開会 午後 1 時 3 0 分

開会の宣告

○石田総務課長 皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、令和元年度第 1 回瑞穂市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会は総務課の石田が務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いします。

それでは会議に入る前に皆様方にお諮りしたいと思います。この会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 1 条の 4 第 6 項の規定により、原則公開となっております。現時点で傍聴希望者の方が 1 名いらっしゃいますが傍聴希望の方の傍聴を認めるということでよろしいでしょうか。

(全員同意)

○石田総務課長 ありがとうございます。もう 1 点、「瑞穂市総合教育会議運営要綱」第 7 条の規定に基づき、会議録には、出席者の氏名等が公表されますことも申し添えます。それでは、はじめに、森市長より、ごあいさつを申し上げます。

あいさつ

○森市長 あらためまして、こんにちは。教育委員の皆様方には、日ごろから瑞穂市の教育行政に深くご理解とご協力をいただいておりますこと、お礼を申し上げます。はじめにお目にかかる方もいらっしゃいますが、よろしくお願いを申し上げます。

本日の議題としまして、私が政策の中で掲げております英語教育のさらなる充実と推進。そして、学校給食費に公費の一部を充てるということ。さらに瑞穂市の教育大綱について、考えていきたいということで議題としております。よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますがお礼のご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうご

ございます。

○石田総務課長　ありがとうございます。それでは「瑞穂市総合教育会議運営要綱」第4条の規定によりまして、これよりは森市長が議長となって会議を進めていただきたいと思います。

議題　（１）市の英語教育について

○森市長　議長をつとめさせていただきます。議題（１）市の英語教育について、ということで担当部署から説明をいただき、そのあとに私の政策を皆様方にお話して、教育委員の皆様方のご意見をいただきたいと思います。それでは説明をお願いします。

○小川学校教育課長　（資料に基づき、「市の英語教育について」を説明）

○森市長　ありがとうございます。私の方からも少し説明をさせていただきます。私の政策は7つの柱で41の政策があります。その中の3つ目の柱で『子育て・教育』、「子どもたちの未来が光輝くまち瑞穂」を掲げております。その中で、中学校の英語教育の推進を図ることを目指していきませんが、私としては、中学生が英検を受験する際の受験料の一部を補助していきたいという政策を掲げました。もともと本市が英語教育を進めていることはわかっておりましたが、これほど充実して進めているということは、そんなに深くは理解しておりませんでした。

それともう1つ、今の説明の中では、英検、I B A検定というのが今回重なってくるところだと思います。その調整と、本日、森下教育委員がおみえになりますが、先日、朝日大学の看護学科開設5周年記念という国際シンポジウムにお招きいただいて、ご挨拶をさせていただきましたのですが、理事長さんも、学長さんも、そして森下副学長さんも、皆さん英語でお話されていて、日本語で話したのは私だけでした。

私は、これから次の時代を担う子どもたちには、家庭において、学校現場において、英語に触れる機会が増える中で、その子自身がさらに英語を勉強したいということがあれば、もっと英語力をつけさせる

ような環境をつくりたいということから、この英検の受験料の一部補助というのを考えています。そのあたり、今、説明された内容と、私の英検を受験し、申請書を提出していただければ、受験料の一部を補助するという政策について、皆様方のご意見、ご提案をいただきたいと思います。どなたからでも結構ですのでお願いいたします。

○加納教育長 委員さん方には、それぞれのお立場から思いをお話していただければと思います。英語検定については、私も市長さんと一緒に思っており、これから必ず重要になるという認識で、就任以来ずっと掲げていることをございます。結果的に今年の中学校の全国学習状況調査はよかったですが、これが安定して続くようにしていきたいと思います。瑞穂市で学校教育を受ければ英語力が上がる。そうなればと考えています。やはり、自分の英語力が確かめられなければならないと思います。瑞穂市ではI B A検定でそれをやっていますけど、市長さんに英検への補助はどうだろう、一部でも補助を、というお声をいただいたときは大変うれしく思いました。だから、子どもたちが最終的にどこまで力が付いたかを確かめるという意味で、英検に補助をいただけることは、ありがたいお考えであると、率直に思っております。あとはどうでしょうか。

○大平委員 実情はどうか、ということをお願いしながら、聞いておりました。結果として、全国学力学習状況調査の結果が良かったということは、素晴らしいことであり、ぜひ、それを伸ばしてほしいと思います。生津小学校は、実際、私が現役だったころから、英語教育を推進しておりましたので、高いたろう思っておりましたが、そのあと穂積北中学校に入りますから、穂積北中学校は高いかもしれない。他校と相当差があるとしたら、ぜひ、そのエッセンスを他校へも入れてもらわないといけない。結局、1つ突出した学校があると、他校との差はどんなものかということをお願いしながら聞いておりました。

○森市長 ありがとうございます。生津小学校の英語教育の現状はどうかということで、説明よろしいでしょうか。

○小川学校教育課長 生津小学校では、先ほども申し上げましたが教育課程特

例校に指定されておりますから、小学校１年生の段階から英語の授業を行っております。授業時数で言いますと１年生、２年生の低学年が３４、３５時間、それから３年生、４年生もだいたい同じ時間です。そして、高学年では、７０時間を実施しております。

他の小学校はどうかというと、今、ちょうど移行期間であり、来年度の全面実施に向けて、準備を進めていく期間でもあります。すでに５、６年生の外国語活動の時間を７０時間実施している学校が、生津小学校以外に３校あります。また、中学年で、外国語活動が実施されますが、すでに、すべての学校で外国語活動は行っております。すでに、３５時間を確保している学校が、やはり、生津小学校以外に３校あります。

また、１年生、２年生では全くやっていないということではなく、ＡＬＴなどが、巡回に来たときに英語に触れられるような活動を行っている、という現状でございます。

○大平委員　やはり、学校間の格差はあるのですか。できるだけ、それを平均化してほしいと思います。

○森市長　生津小学校の子どもたちは、中学校に上がり、本田小学校の子どもたちと一緒になったとき、どのような状況でしょうか。

○小川学校教育課長　実は、生津小学校が指定を受け、英語教育に力を入れていくということは、本田小学校においても、同じような取組をしていかなければならない。これは、始まった当初からわかっていました。したがって、本田小学校においても、例えば、お昼の時間に英語に触れられる時間をつくったり、全校放送で人形劇をしながら、英語で会話するようなものを放送したりするなどの取組を当時から行っていました。今日の午前中も、穂積北中学校の授業を見てきましたが、中学校に入ってしまうと、どの子が生津小学校出身で、どの子が本田小学校出身ということはわからないくらいであり、生津小学校で学んだよい影響が本田小学校出身の子どもたちにも波及していっていると思っております。

○森市長　よろしかったでしょうか。

○大平委員 はい。

○森市長 加藤委員さん。

○加藤委員 これまでの英語指導の成果が、学力状況調査にも出ているというお話を伺いましたが、成果が出た要因といたしますか、こういった指導がよかったかというあたりも、はっきりさせていくといいかなと思います。生津小学校は、全学年で取り組んでいるということですが、来年以降、すべての小学校で、取り組んでいく方向とのこと。しかし、生津小学校と同じようなかたちでできるかという難しい部分があると思います。こういった成果が出た要因を明確にして、他校へ生かしていければいいかなと思いました。

同時に、高学年では70時間ともう決まっておりますし、中学年、低学年も35時間ということですが、つまりこれは、他の教科などの時間を割かなければいけない状況だと思います。他の教科とのバランスについては、生津小学校での実践がありますので、生かされていくことと思いますが、他校についても、そのあたりの取組を検討していただくといいかなと思いました。

○森下委員 先ほど、学校教育課長さんが話された35時間と70時間というのは、文科省において、正式に科目化にした場合の時間数と同じです。つまり、生津小学校では、大幅な変更なく、そのまま移行できるということになります。今、加藤委員が言われたように、他校で35時間とか70時間を実践していくときに、若干、他の科目が影響を受けることになるかと考えています。

今、市長さんが言われたI B Aの件で、私は朝日大学を代表してきているわけではないですが、朝日大学では、I B A検定を行っており、学生に受けさせています。学生は、ここでいうCランクぐらいですけども、やはり、すごい差が出てきています。

I B A検定は他の検定試験に比べて、意外と安く、確か500円ほどで受けることができます。保護者の立場からすると、全額補助してしまってもいいのではないかといいと思います。ただ、問題は1回のみであり、中学生は3年間ですので、1回受けるだけではあまり効果

がありません。例えば2回受けるとか、1年生と3年生で受けるとか、毎年受けるとか、大変かもしれませんが。I B A検定は、前の受験のときには何点、今回受けたら何点と、全部履歴が出てきますので、1人ひとりの進捗状況がわかるという意味で、できたら複数回、同じ生徒に関して、実施していただけると、非常にいいのではないかと思います。

それから、大学の亀谷准教授ですけれども、特に子どもたちに直接ということではなくて、先生方に対して、授業法などいろんなノウハウを持っていますし、実力もありますので、非常に役に立つと思います。ぜひ、どんどん活用していただければと思います。

とりあえずは以上です。

○森市長 I B A検定は、平成31年は、全中学生が受験したということですが、その前はどのような状況でしたか。

○小川学校教育課長 昨年度は1、2年生、一昨年度は1年生が受験しています。今、その時の1年生が3年生になって、3回目の受験ということになります。

○森市長 その結果、3年生はCということでしょうか。

○小川学校教育課長 そうなります。

○森市長 もう1点、お聞きします。I B A検定を受けたあとに、英検を受けている生徒がどれくらいいるか。把握はできていますか。

○小川学校教育課長 調査はしておりません。

○森市長 英検を受けた生徒さんというのは、ある程度わかっていると思いますが、どんな状況ですか。

○小川学校教育課長 昨年度、そういった調査がありましたので、先ほど申し上げたような数字をつかんでおりますが、全学年にわたって、結果を把握しているという状況ではありません。

○森市長 I B A検定で、500円程かかるということですが、個人で支払っているのですか。

○小川学校教育課長 教育委員会の予算から支出しています。

○森市長 全額、予算からですか。

○小川学校教育課長 はい。

○森市長 では、次に加木屋委員、ご意見どうでしょうか。

○加木屋委員 まず、英語に力を入れていただくというのはとてもありがたいことだと思います。子どもたち、我が子も含めてですけれども、今、本当に高校受験、大学受験、就職試験、すべてにおいて英語力が重要視されているところが多いので、小学校、中学校のときからの英語力とか、英語に抵抗を感じないということが必要であると思っています。

小さいとき、小学校の低学年から、英語に親しんだ子どもは、聞く力もすごくあると思いますし、英語への抵抗が非常に少ないということを実感しておりました。小学校のときから、英語教育に力を入れていただくというのは、とてもありがたいことであると思います。

英検に関してですが、これもやはり、高校受験とか、大学受験とか、就職試験とか、いろんな場面で英検何級ということが、問われることがありますので、ぜひ、早いうちから力をつけていってほしいと思います。補助を出していただけるというお話は、非常にありがたいと思いますが、それと同時に、今の現状はわかりませんが、子どもたち自らが英検を受けたい、と言わない限り、保護者の方から、受検を勧めるということはほとんどほどこないと思います。実際に受検した子たちというのは、塾からの勧めがあったからとか、受験に有利だよ、というような声を聞いて、初めて受けようという子が非常に多いと思います。そのような情報が入らない子たちからは、あとで英検しておけばよかったという声を聞いたりもします。補助を出していただくときには、合わせて、市として英検の受検を勧めているというところも同時にPRしていただければと思います。市外でお子さんをお持ちの方とかも、教育、英語に力を入れている学校はどこという声を聞いたりしますので、瑞穂市自体が活性化するという意味でも、非常にありがたいと思います。

○森市長 ありがとうございます。生徒さんたちには、英語力をつけたところで、受検してもらい、合格させてあげたいという思いもあるので、今回の英検の受検料補助の周知を一度、教育委員会と相談していかな

ければならないと思います。教育長さん、そのあたりの進め方について、ご提案、ご意見はありますか。

○加納教育長　いろいろとありがとうございました。今、英検ということで、少し限定しながら、話をしていますが、大学入試は、今度、民間試験を使おうというかたちに変わってきております。英検も民間試験です。種類もいくつかあります。そうしたときに、本当に英検が一番いいのかどうか、これも含めて検討しなければいけないということを、今、お話を聞きながら思いました。

I B Aはスコアが出るので、非常にわかりやすいことから、市の施策として、教育委員会でやっておりますが、さらに一步進めて、実力を確かめるという市長さんの思いを、具現化することについて、検討していきたいと思っております。いろいろとご意見ありがとうございました。

○森市長　私の方こそ、ありがとうございました。では、1つ目の市の英語教育について、皆様方からご意見をいただきましたので、それを参考に、また教育委員会と調整をしながら、来年度に向けて実施ができるように進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

議題　（２）学校給食費の補助について

○森市長　続きまして、学校給食費の補助ということで、教育総務課長から説明をお願いいたします。

○松島教育総務課長　（資料に基づき、「学校給食費の補助について」を説明）

○森市長　ありがとうございました。今、説明があったように学校給食費は、保護者の給食費の負担、3億円ぐらいの賄い費で運営しており、その他、学校給食費にかかる調理員の人件費などについては、市の一般会計の方で負担しております。

私の政策では、保護者の方の経済的な負担を軽減するというのが一つと、もう一つは、1年の間には食材の物価の変動があり、また、災害などによる物価の変動もあることから、安定した給食を提供するに

は、公費を一部補助することが妥当ではないか。この2つの理由で、学校給食費の一部補助を実施していくことについて政策に掲げました。

今の県内の状況では、完全に給食費が無償のところは岐南町、揖斐川町、一部減免しているところが、高山市で今年度より3分の1を補助、美濃市では2人目が半額補助とか3人目が無償、下呂市では中学生が半額補助、3子目以降が無償にしているところが、関ヶ原町、池田町、このあたりでは北方町、本巣市にあっても、3人目以降は500円の地域振興券を配布しており、1食あたり10円、20円を補助しているところもございます。

この学校給食費に公費で一部補助することについては、市民の方のいろいろなお考えがございます。本来は、自分が口にして食べるものなので、すべて保護者の負担でいいのではないかという方ももちろんいらっしゃいますが、子どもが減少している昨今ですので、少子化対策として実施しているところもあります。

いろんな理由で、それぞれの自治体が政策として実施している中で、私は、学校給食費に一部補助をするということを掲げました。

これにつきましても、委員の皆様方からご意見をいただきたいと思います。

○加納教育長 学校給食費については、昨年度も、今回も、監査等で繰り越しなどが多いとご指摘いただきました。昨年度は、教育次長、教育総務課長、給食センター長で、毎月のように集まってお金の使い方がどうかということを本当に事細かくチェックを行い、昨年度末には結果的に約100万円の繰り越しで抑えることができ、当事者である給食センター長は、よく努力してくれたと思います。1食の賄い費にだいたい150万円から160万円かかります。市長さんが言われたように物価の変動で材料費が変わることから、その変動を考慮していくと、市長さんの2つの思いの中で、ご配慮をいただけることは、ありがたいというのは正直思うところでございます。

それから、やはり昨今、経済的な負担となっているご家庭もあることは承知しております。そのあたりも、どのぐらいの支援ができるか、

検討していくことが必要であると感じております。

○加木屋委員　そうですね。私も教育長さんがおっしゃられたとおり、やはり、給食を安定して出していただくことは非常に難しいことだと思っています。最近、これだけ天候不良だとか、様々なこと起きたりして、食費が上がっていくことを考えると、子どもたちに安定した給食を与えていただくことに、一部負担をお願いできるということはとてもありがたいことだと思います。

1つ質問ですが、未納だった場合に児童手当から支払いますという契約書じゃないですけど、そういう書類を当初、入学時とか新学期のときに出すと思いますが、実際にそういうところから給食費を支払われて、なおかつ、それでも未納になるということはあるのでしょうか。

○松島教育総務課長　児童手当からの申し出徴収のことだと思います。そちらにつきましては、同意書というかたちで、年度当初にいただいております。児童手当からの未納ということはありません。

○加木屋委員　ありがとうございました。

○森下委員　もう子どもの教育からずいぶん離れてしまっているのですが、わかりませんが、基本的な姿勢としては、やはり受益者負担であると思います。ところが、先ほど言われたように、未納分が出てしまうというのは、いろいろな事情があります。未納分に対して、教育長さんをはじめ、いろいろな方々がいろいろなことをやられているというのは、考えようによっては、すごい機会損失であり、その時間を他の仕事に回したら、もっとすごいことができるのではないかとということもあると思います。今、加木屋委員が言われたように、納めていただけるのであったら、児童手当からでも納めてもらえるような仕組みが必要であり、きちんと納めている人に、不公平感が出るのは非常にまずいと思います。特に本当に納められなくて、未納になってしまったのならともかく、よく聞く話としては、払えそうなのに全然払っていないとか、これは単なるうわさかもしれないですが、そういう話を聞きますので。とにかく不公平感だけは生じないようなかたちで、一部負担をお願いしたいと思います。一部といっても何%という問題がある

かもしれませんが、実施されていかれたらいいのではないかと感じます。

○加藤委員 一部補助について考えていただいていることは、大変ありがたいことだと思います。補助の仕方としては、先ほどから話題になっていますように、食材の購入において、気候の変動で特に野菜類の価格変動があるものですから、もし賄えない部分について補助していただくというようなかたちがあるかと思っています。もう一つは、経済的に負担が困難な家庭もあるわけです。そういった家庭に対して、補助していくということも考えていく必要があると思います。いろいろなかたちで学習ができるように市から補助があるかと思いますが、給食についても、この表を見ると、過年度でも未納がかなりありますので、どうしても払えない、本当に経済的に困難な家庭については、補助が必要かと思っています。

ただ、経済的に困難な家庭については、やはり教育委員会だけでは対応できないと思います。福祉課などからの働きかけを受けながら、その家庭が経済的に自立できるように応援していく。それと同時に、それまでの間は、補助をしていくという体制をつくってもらえればよいのではないかと思います。

○森市長 ありがとうございます。経済的に困窮な世帯、保護者の方への対応ということですね。次に大平委員よろしいですか。

○大平委員 加藤委員がおっしゃったこととほとんど同じです。やはり家計が非常に苦しいということで、子どもがそれによって不利になるようなことがないように、そういう方にうまく補助ができる方法があればと思います。無償というのは、財政負担が大きくなるので、簡単にはいかないだろうと思いますし、そこまでは、私は必要ないとも思っています。以上です。

○森市長 ありがとうございます。先ほど教育長さんが言われた給食費は保護者の負担で賄うということ。それで1年間やっていくのですが、物価の上昇なども見据えながら、最終的に繰越金を少なくすることが、本来のかたちではあります。それが多くなってしまうとまた問題にな

ります。次の年に繰り越すと、その年には、卒業していなくなる子どもさんもありますので、できる限り、その年度の支出し、繰り越しを少なくすることが必要になります。今回、この一部補助をすることによって、保護者の給食費を先に使っていくというような考え方になるので、繰越金を気にせずにやっていけるということもあります。これらを踏まえながら、来年度に向けて、学校給食費の一部補助を実施していきたいと思っております。また、皆様方のご意見をいただければと思います。

議題 （３）瑞穂市教育大綱について

○森市長 それでは、３つ目の瑞穂市の教育大綱について、資料をお配りしております。今回は、何も示しておりませんが、少し手直しをしていきたいと考えております。これについては、次回、私が直した案を皆様方にお示しして、ご検討をいただきたいと思います、今日は頭出しのみとさせていただきます。

○加納教育長 教育大綱は、ちょうど私が就任した、その年の４月１日から施行されたものでした。それから３年間やってまいりまして、今年で４年目となります。本来、この教育大綱は、何年使うのかというのを示すべきものであります。それがなかったことはちょっと考えていかなければならない。これが、まず大前提にあります。

今回、この教育大綱を見直すにあたり、１つの提案ですが、ＳＤＧｓの視点に基づいた教育を推進したいということがあります。市長さんも、それを施策の中核に進めたいというお考えを持ってみえます。これを教育に置き換えたらどうなるか。ＳＤＧｓの視点による教育の推進について、私も内容は考えております。また市長さんと詰めますが、そういったものをとらえながら、今後の瑞穂市の教育を３年、４年、５年と決め、「これをやりましょう」と目標を考えながら、進めていきたいと考えております。市の第２次総合計画、教育振興基本計画もありますので、それらとどうリンクさせるのか。教育大綱は、一番の元として進めていきたいという思いを持っております。市長さん、

その辺はよろしいですか。

○森市長 はい、ありがとうございました。今日も午前中に、ある保険会社と協定を結びまして、その中にもSDGsを広げる研修というものもあり、これから職員にもSDGsを進めていきたいという思いがあります。私もそのバッジを持っではおりますけど、現在はまだSDGsを政策の中心において進めているというわけでもないの、付けるのがなかなか恐縮する思いであります。今、教育長さんにまさか言っていたかとは思わなかったのですが、SDGsをこれから職員に向けても発信していくということで、SDGsとは何なのかということを示していかなければならないと思っております。それによって、何か国とかから補助がもらえるというようなことはありませんが、そういうことも位置付けていかななくてはいけないと考えております。この教育大綱について、皆様方のお考えがございましたら、今日でも結構ですし、後日でも、教育委員会の定例会を通じてでも結構でございますので、ご意見をいただければ、それを機に直していくよう進めてまいりますので、よろしくお願いを申し上げます。よろしかったでしょうか。

○森下委員 加納教育長の今のSDGsの話について、私はすごく感激しました。まさしく、これからの世の中、SDGsが世界的な水準で動いていくと思いますので、それは大事なことだと思います。

○加納教育長 他にそういったものを取り入れた教育大綱というのは見ておりません。一人も取り残さないという考えが、SDGsの一番根底にあると思います。SDGsを取り入れた教育を、是非とも進めていきたい。ちょうど市長さんから、教育大綱を見直したいとご意見をいただきたいときに、「これだ」と思っていましたので、今日は、こういう機会をいただいたので、提案させていただきました。

○森市長 ありがとうございました。昨日まで3日間にわたって、議会の一般質問がありましたが、その中で、お二人の議員から、SDGsを市の政策の中心に置いて進めていくべきではないかというお話がありました。先進的な市では、もう、いろんな政策の中に17あるアイコンが

入っています。瑞穂市では、まだ何一つできていないので、すでに、ある総合計画の中に、その17のアイコンをラベルとして貼れるのか、その内容、目標をどう進めていくのかという作業を、これからしていくことになります。

以上で、今日の議案はすべて終了です。ありがとうございました。
事務局の方にお返しします。

閉会の宣告

○石田総務課長 それでは、これで終わりたいと思いますが、本日の議事録の作成につきましては、議長に一任をしていただきたいと思いますよろしくお願いします。

(全員同意)

○石田総務課長 ありがとうございます。本日は、会議の円滑な運営にご協力いただきまして、ありがとうございます。これで閉会とさせていただきます。

閉会 午後2時25分